

# 『東京 岐阜県人会』



**左合** 岐阜市よりも賑やかですね。

**唐澤** いつも会の後、木曾さんとお茶を飲みに行くんですね、私はお酒ですけど(笑)。そんな関係で、今日はご参加いただきました。では、左合さん。

**左合** 左合です。たぶん岐阜にしかない名字で、東京では大変珍しいです。

グラフィック・デザイナーですが、自分の会社を持ってやっています。

芸大ではデザイン科でなく芸術学科を出てパルコに入りました。仕事の合間にがんばって作品をつくって「朝日広告賞」に応募したところ、「準朝日広告賞」をいただきました。それをきっかけにデザイン事務所に移り、30歳で独立すると決めていた初心のままに「左合ひとみデザイン室」を設立し、現在に至っています。

**唐澤** 左合さんは、岐阜高校の先輩なんです。私が会社を起すときに、早速ロゴのデザインを後輩割引で無理くりお願いしまして。(笑)

**左合** デザインの最初はサブリネット、次今のパーソナルデザインスタジオのロゴ。

## 四魂の窓

**左合** 折角の機会ですし、お互い知り合つと

いう意味で、簡単な性格診断してみませんか？

「四魂の窓」といって人を「愛・親・勇・智」と4つのタイプに分けるテストです。二者択一の2問だけ答えれば、大まかな性格がわかるんですよ。1問目は、情熱型か冷静型か。2問目は、合理的か情緒的か。

**木曾** 私は、情熱と情緒だわ。

**左合** それは、愛の人です。人に好かれているかどうか、相手を好きかどうかを重視するタイプ！芸術家に多いタイプですよ。私はデザイナーだけど、冷静と合理で、智の人なんです。だから、どちらかというすべて分析した上でデザインしていく。ある意味でマレかもしれない。

**長島** 私は冷静と情緒。

**平良** 私も同じだわ。

**左合** それは、親の人です。多くの人と仲良く、絆を大切にしている人です。

**長島・平良** へえ、当たってるかも……。

**唐澤** 私は、情熱と合理かな。

**左合** それは、勇の人。達成とか目標という言葉が好きなん。だから、唐澤さんは経営者向きなんですよ。

**唐澤** それって、面白いですね。しかも、ここに、愛・智・親・勇とすべてしているなんて驚き。バリエーション豊かな集まりなのかしら？

## 再び…私ってこんな女性…

**唐澤** 自己紹介に戻りましょう。

**平良** 平良未散と申します。実家は土岐市なんです。高校は、多治見北高、最近いろいろ多治見の知名度も高いので、多治見あたりの出身ということになっています。(笑)

**左合** 土岐市って駅がありますよね。私も3年ほど前、名古屋からコトコト電車に乗って土岐市に通ってました。あそこの窯元を地域でまとめてブランディングする仕事をやっていて。

**平良** 東京に出て約25年、今まであまりふるさととは関わりがないまま突っ走って来たんですが、高校の関東同窓会に、何人かの同級生と参加した際にいろんな方と出会い、そのご縁で県人会をご紹介いただき、そこで理恵さんとも初めてお会いして…。

**唐澤** 三次会まで行ったかしら。すごくお酒をお飲みになるんで、びっくり！



**平良** 短大を出た後ANAに入社し、10年ほど乗務後、退職しました。その後接遇関係の教員として専門学校に入り、現在は接遇、コミュニケーション研修の講師として活動しています。

## それぞれの道へのきっかけ

**唐澤** 木曾さん、ピアニストになったきっかけってなんですか？

**木曾** 2歳の時からバレエを習ってたんですね、大垣で。

親は私をバレリーナにさせたくて音感をつけるために小学校の一年生の時からピアノを習わせられたんです。あくまでバレエが先なんですけど、ピアノの方が楽しくなっちゃって、ピアノの途に進んだんです。

**唐澤** ピアノって練習とか大変じゃないですか。それを乗り越えて14歳で名古屋の大会に出て、アメリカへも演奏旅行に行かれてますでしょ。そこまで自分を支えてくれたモノってなんですか？

**木曾** いろんなきっかけの中で一番は、中学のころ、将来の進路を迷っていた時、あるバイオリンの演奏を聴いたんです。今から思えば高校生のお姉さん方の演奏会だったんですけど、その音を聞いたら雷に打たれたみたいになっ

ちゃって、音楽を聞いて感動するっていう体験を、生まれて初めて忘れもしない中学1年生の11月23日にしまして、ピアノの途に行くって決心がつき、周囲にも誓いました。

そのとき、どんな苦労も努力でもすると決心したんですが、すごく遅いんです。決心の時期が普通ピアノやる人って3歳ぐらいからお母さんもおばあちゃんも皆総出で、音楽家というところの家庭のルールに乗せられる人が多いんですけど、ウチの親にはそんなつもりは全くなく、その途の先生につき、本格的な受験体制に入ったのも遅かった。でも、その時の情熱がハンパじゃなかったから。グワーッと突き進んだって感じなんです。どん底も数知れず味わいましたけど、やはり音楽が好きっていう気持ちの根底にあって、何があってもそこに帰る。音楽ってというのは、人の心を助ける力があると思うんですが、結局は自分自身の人生が音楽に救われているのかなと最近になって思います。



**唐澤** 素晴らしい！やはり愛の人ですね。

左合さんもグラフィック・デザイナーとしてパルコで賞を取ったり、世間で認められるところまで行かれ、普通の世界観の持ち主ではないのではと思うんですが、特に専攻が芸術学科だっ

たにもかかわらず、なぜグラフィック・デザイン  
の途に？幼い頃からの出来事など教えてくだ  
さい。

**左合** 将来のことを考えたのがすごく早いん  
ですよ、私は。

小学校の時に、デザイナーを目指すのと同時に  
漫画家も目指してたんです。漫画雑誌の「りぼ  
ん」を読んで感動して、とにかく漫画家になり  
たいなって思ったのが最初。そのころ近所に資  
生堂の化粧品屋さんがあつて「花椿」や、パッ  
ケージの素敵な商品が陳列してあつたんです。



それらは、美しいだけじゃなく、斬新だなと  
思いました。「シューラルー」っていうカプセル  
のようなパッケージの、ティーン用の化粧品  
を12歳の誕生日に買ってもらつて、デザイナーへ  
の憧れが膨らんでいきました。デザイナーと漫  
画家を目指した理由の共通項は、絵がもともと  
好きだったってことでしょうか。

絵を書いたり美しいものを作ったりして、ひと  
をワクワクさせたいって気持ちは子供心にも

あり、その後、デザイナーと漫画家への夢を決  
めかねたまま、芸大では実技の選択肢の多い芸  
術学科に進みました。ただ、芸大に入ってから  
の漫画はそれまで伸び伸びと描いていた少女  
漫画と違って、私小説みたいな方向にいつてし  
まったので、徐々にデザインの方に絞りこんで  
いった訳です。

**唐澤** 長島さんはなぜまたスイスに行くこと  
になったのかということ、そして大学卒業後、  
私が大好きな番組、ディスカバリーチャンネル  
に入られた就職の時の気持ち、その辺のお話を  
聞かせて下さい。



レザンの街並み (長島)

**長島** 中学3年生  
の時にスイスの高校  
のパンフレットを見  
て、「あ、凄い」と  
思つて。私、夫にも  
言われるんですけ  
ど、ちょっとミ  
ーハーな部分があつて、



受けてみたら受かつたので、挑戦してみたんで  
す。そしたら岐阜の小さな町しか知らなかつた  
のに、ヨーロッパの真ん中に住み、いろいろ変  
わつたところへも行つて、世界観ががらつと変  
りました。

大学は日本に戻り、早稲田に行きましたが、卒  
業後は一旦、岐阜に戻つて生活してみようと、  
Uターン就職しました。それも海外に接する仕  
事でしたが、やはり日本の企業ではなくて外資  
系で働きたいと思つて転職したんですね。それ  
がディスカバリーチャンネルです。そこで、外  
国人社長の秘書になつて、いつも海外と関わつ  
ていて、すごく楽しかつたんです。本当はずー  
っとそのまま働きたかつたのですが、偶然にも  
フライベートの縁と上司の転勤が重なつたの  
で辞めました。ただディスカバリーの時に秘書  
として仕事をしてきたスキルみたいなものは  
残つていて、業種は違つんですけど、夫を支え  
る意味では役に立つてゐるかなつて思います。

## 子育てと人生設計

**唐澤** 外で働きたいって気持ちもありながら、  
でも今は開業されているご主人のお手伝いを  
されている訳ですが、子育てを含めどう人生設  
計されていますか？

**長島** 子供が小学校に入るまでは家にいて手  
伝うぐらいがちょうど良いかなつて思つてい

ます。小学校に上がったら多分もう少し手が離れると思うので、夫がNPOを立ち上げたり、いろいろやりたいことがあるみたいなので、そこに入る形で考えています。自分自身で何か事業をするっていうのは、無理かなって思うんですけど、夫の夢に乗っかって、そこで自分の活躍の場を広げて行けたらいいなど、漠然となんですけど思っています。

**唐澤** ついて行き甲斐のあるご主人のようですね。



沖縄で愛児と(長島)

**長島** いえ。ただいえ…。ただ家族ってのは、喧嘩もし易いんです。会社のように他人同士で働くのとはちよつと違って、お互い甘えもあるし、ディープになつていくのでぶつかることも良くあるんです。

**唐澤** でも、それこそ金婚式の50年経つた時にお互い戦友みたいな感じになつて良いんじゃないですか?そんな人生も羨ましいなと思います。

岐阜への思い入れとかあればお話しいただけますか。

## 自分にとってのふるさと岐阜

**長島** 地味な所なんです、地図上では。子供と一緒に日本地図のジグソーパズルをやるんですが、岐阜ってなかなか覚えにくい。でも、離れてみて岐阜を思いかえすと、有名な方、優秀な方がいっぱいいますし、地味な割には活力あるなアと思いますよね。里帰り出産をしたのですが、岐阜は産科が充実してました!住みやすい所だと思つし、私も縁があつたら大垣に住みたかつたですね。

**唐澤** 地を這つような活力が感じられますよね、華やかじゃないですけどね。

**木曾** よく見ると派手だつたりしてね。

**唐澤** 前の知事がへソつて云つてたのがすごくビツタリ。へソつて、派手じゃないけど中心だよ。

**木曾** 絶対必要、大事なこと詰まつてるし。

## 思い出の就活活動

**唐澤** そうそうそう、そんな気がしますよね。

平良さん、多治見のご出身で南山大学に入られて、それで、これまた憧れのスッチャー、女

子の憧れの職業だつたから、その辺りのきつかけとか、幼い頃からの思い入れとかあるのでしょうか。



**平良** 偏差値教育時代でしたから、このくらいの偏差値だつたらここ、と自動的に決まるような感じで多治見北高に入学。進学校で女子が少なく将来のことを話しあう機会もなく、みな同じだと思つていたら、実は留学を考えていたとか、看護師目指してたとか後から聞きました。大学は、共通一次を受けるには理科と数学に難ありで私立と決め、偏差値で安全圏の短大に入りました。短大を出てさて就職となると男女雇用機会均等法が施行されたばかりで、女子の総合職採用などほとんどなく、しかも、四大卒でないといけない会社が圧倒的、入社試験で「女性で短大卒は五年いてくださいなさいねんですヨ」とか「社内が良い方見つけて、後は家庭からサポート」と人事の方が真顔でおっしゃるような時代でした。じゃあ女性でも辞めろつて言われない会社捜せと、ある程度何かできそうだったらANAの客室乗務員。それが



10年間乗務をしてる間に、会社に育てられたという感じですか。サービスマンは自分には不向きと思っていたんですが、この仕事はとも私に合っ

ていました。航空会社を退職後、次の人生を考えたとき、自然と人材育成の途に入って、今ではそちらの方が長くなりました。何が向いてるかを考えたこともなく、「むしろ避けていたものに自分が生きる世界があったなァーというのが実感です。周りの方には、今の仕事は「私には自然だ」と言われます。自分が自分の事を一番認識しないまま、たまたま本場に運ぶまでこられたような気がします。

## 子育てと仕事…究極の両立法

**唐澤** ご家庭と両立してますでしょ？大変だった時期があったとか？

**平良** 未だに大変なんですけど（笑）、私も長島さんと同じで、まだ4歳なんです、子供が。今までカミングアウトし損ねて。（笑）

**唐澤** 本当だ、私も知らなかった、カミングア

ウトだ（笑）。お子さんがいらつしやる事は知ってたけど、もうちょっと大きい子かと……。殆ど手が離れたからパンパン私とも飲み歩いてくれるのかと思ってた。

**平良** 主人と二人だけで、どうやって育てていくのかという不安はあったんですが、一度家に入ってしまったら、二度と出てこれない年齢でしたし、もともとあまり物事を考えない性質ですから「何とかなる」と思いながら、4年間。幸い下町浅草に住んでいますので、周りの方がすごく助けて下さる。遅くなる時は「ウチに泊まっていいから」と言ってくださるような人情に助けられて、仕事でもそれほど支障なく、理恵さんから呼ばればホイホイ出て出かけられるというのが、ありがたい現実です。

**唐澤** ご主人は、浅草ご出身？

**平良** 全然違います、沖縄です。

**唐澤** じゃあ、沖縄行ったり、岐阜行ったり？

**平良** 主人は岐阜に行きたがるんですが、帰省となると沖縄。私も妹も東京にいるので、岐阜から母が出てきてしまうんです。母が頻繁に出てくると、帰る理由がなくなってしまう。昨年は、多治見市長にお目にかかって、役所の職員の研修を依頼され、久々に故郷に。やはり帰る

と良い所だなんて思いますよね。東京にいるからよけいに思います。高校時代までの友人の方が素を知っているというか、東京では何かこうがんばってお付き合いしている友人ばかりがどんどん増えてきてしまって……。その点、地元の友人は気楽です。



## ふるさと「岐阜」の風景…

**唐澤** 私もある程度の年までは全然岐阜なんて帰りたいとも思わなかったんですけど、あるとき急に「帰りたい」とって思い始めた。

**平良** 急に郷土愛に目覚めた？

**唐澤** ありますよね、人間って何なんですよ、うね、フレンチとかイタリアンが好きだったのに、急に和食が好きになるみたいな。そんな感じですかね、血が騒ぐっていうか、落ち着くというか。

**唐澤** 左合さんもよく帰ってますよね。先日  
のゴールデンウィークも。

**左合** そうですね。ゴールデンウィークに岐  
高の仲間と岐阜で集まりました。高校時代は、  
皆がガリ勉やっつてる間に、私は一人芸大目指  
して美術研究所に通って絵を描いていたので、  
自分だけ特殊だと思っていたのですが、今回  
改めて友達になれたような気がしたんですよ。



あんまり学生の時  
に話してなかった  
人と話せたり、皆  
から本当はいつば  
いコンプレックス  
があったという話  
や、私に対して、あ  
る意味リスベクト  
してくれていたこ  
とを聞いたりでき  
て、面白かったですね。こういう共感って、あ  
の10代の時代と同じ風景を見ていたってこと  
が大きいと思います。改めてやっぱり、岐阜の  
空って夕焼けがものすごく綺麗だし。

**木曾** 大きいですね。

**左合** そう、大きいってのは、皆言ってた。  
ゴルフの帰りの車でやたら夕焼けを撮ってる  
友人がいたので、「空を撮ってるの？」って聞  
いたら、「東京で子供に見せると感動するんだ

よ」って。長良川の橋から見る夕焼けはすごい。

**唐澤** 友達を岐阜に連れて行くと、皆県庁所  
在地なのに、金華山があって、その他山々があ  
って、綺麗な長良川が流れてる、あの風景は  
「全国どこ捜してもないんじゃないの」って言  
いますね。

**木曾** 山と川がねー。

**左合** あの辺が「ザ・岐阜」っていうシー  
ンだと思っんですけど。

**唐澤** 「ザ・岐阜」ですよ。ああいうのは。

**左合** 山が突然あるのがいいですよ。市街  
地から、「はいここから山です」って感じで。夫  
と帰る時は都ホテルに泊まるんですけど、前  
に金華山、岐阜城、長良川っていう「ザ・岐阜」  
があるので、彼もすごく喜んでます。着いたら  
まず「泉屋」さんで鮎を食べて、「開花亭」行っ  
て、二人とも飛騨牛が大好きなので最近「ば  
くろ一代」にも行くようになって、という岐阜  
グルメツアー。彼は北海道の人なので、美味し  
いものは故郷にもいっぱいあるのに。

## 東京で生きていく活力とは

**唐澤** 今日すごいね。ご主人が北海道、沖縄、

埼玉、茨城、私だけじゃないじゃない！（苦笑）  
この東京砂漠で生きていくなかで。岐阜出身で  
ある活力ってなんですか？

**左合** なんだらう、岐阜は多分ポテンシャル  
がある人がとても多い土地柄で、デザインに  
ついてはきつとそうなんです。おとなしくな  
い人は東京に出てきてないんでしょうね。キッ  
ト！、つまり困ってない土地柄だからまるで危  
機感がないんですよ。企業さんもそう。私は全  
国各地の地場産業の活性化をやっているけど、  
一番頼まれないのが岐阜なんです。充たされ  
ているから、頑張ってマーケティングしてさ



自らデザインしているブランド「enn」の洋食器をフランクフルト見本市に出展（左合）

らに売ろうとかって気が起きないんでしょね。今のうちから未来へのブランディングをしておけば、あと100年しっかりした企業でいけるはずなのに。いろいろと可能性が多い街なので、あとは気持ち次第だと思います、誰か情熱的な人がいれば良いんです。

**唐澤** では、愛の人、木曾さんに！木曾さんもすごく情熱的に、ロシア行ったり、日本人で初めてチャイコフスキーのピアノをひくことができたとか。

でも仕事と生活を両立しているはずなのに、お姫さまみたいなイメージで生活感がないのはなぜ？仕事以外の時は何をしていますか？



ロシア国立チャイコフスキー博物館  
日本人初、作曲家自身が愛用していた  
ピアノでの演奏会後 (木曾)

**木曾** ご飯作って、家事やってます。(笑)

でも、音楽、芸術って全部その人のヒトとナリが出ますよね。その人の性格から、生活振りから、心の中まで自分では出していないつもりでも、お客さんってすごい敏感だから、感じとられてしまう。だからマイノリティをいつも楽しくハッピーな状態で居られるようにしています。

**唐澤** 大垣にはよく帰りますか？

**木曾** お正月以外は、向こうで仕事があるついでに帰ります。帰ると寝ますね。実家でワンちゃんと遊んでのんびりします。

**唐澤** それが活力の源になっているのかな？

**木曾** 活力の源というよりは、かえって病気になるります。体を壊すんですよ。忙しいほうがかえって体調が良いんです。実家に帰ると、かえって気が抜けちゃって、緊張感がなくなるのか、体調を壊すんですよ。(笑)。ただ、演奏ってその人のアイデンティティが全て音楽に凝縮して表れますよね。岐阜のあの風景とあの空気の中で育ったことは、私の音楽の中から消しようにないことなんです。でも私は西洋の音楽をやっているわけで、日本人であるということ、つまり血のことを悩んだこともありましたが、日本で岐阜で生まれ育ったこのアイデンティティを持って、この心で表現することが大事なんだと今では思うようになりました。



コンサート後のCD発売、サイン会 (木曾)

西洋の音楽だから向こうの人の心にならなくちゃいけないんじゃないかと、日本人の心で表現すればいいんだと。生まれ育ったということ私の音楽の中で欠かすことのできない要素というか、刻み込まれたものですので、それを大切にしたいと思えるようになりました。

**唐澤** それをフラス融合したところのアイデンティティで表現されているんでしょうね。

## 岐阜の男のアイデンティティ

**唐澤** 私の仕事は、その人の魅力、パーソナル・アイデンティティをどう外見に表現するかというコンサルティングです。日本の人たちがとくに男の人は、なかなか洋服に馴染んでいない。素敵に着こなしている人は残念ながら少ない。でも、和服を着た時にとっても魅力的になるんですよ。不思議なことに。いろんな会合に出ると、最近着物を着て参加される男性が多くなった。本当に素敵です。たまに自分の国のアイデンティティである和服を着て頂くことを常にお勧めしています。

**木曾** 理恵さんも着物を着たりしますか？

**唐澤** 私も着ますよ。会社のイベントの時に着ますし、ただ飲みに行くときに着る着物つてのもある。初めて自分で着た時、鏡を見てた



ヘアデザインを確認中(唐澤)

せいか右か左か解らなくなってしまう、平気で右前にして飲み歩いて、誰も指摘してくれず、最後のバーでやっと指摘してもらった、とか恥ずかしい経験もたくさんした上で今がある。

ま、私は皆さんと違って唯一の独り者で、自由勝手、気ままに生きてきた。

そして、この5月20日で半世紀を迎えましたが、感覚的には30歳の時と変わってないですね。今、多くの企業で講演や研修をやっています。見た目磨ぎのパーソナルデザインや、セクハラ・パワハラ防止研修などもやるなかで「50歳になってよかったな」と思います。大手企業管理職セミナー受講者は、殆ど40代、50代で、私より年下が半分なんですよ、だから私も全然動じない。だけど起業した12年前はまだ38歳で、いろんな所で講演頼まれても、企業の管理職の人たちは自分より年上でしょ？それは大きな違いですよ。年齢とともに自然に身につけてくるものを感じる。つまり、私の人生がそのまま私の表現に繋がり、

ますます日本のリーダーの人たちのパーソナルデザイン分野でその経験が生きていくんじゃないかなと思ってます。とにかく、何が何でも岐阜こそが日本の中で一番素敵な紳士・淑女が集まる県にしたい。私が岐阜で生まれたからには、「絶対に！そっしたい」という希望を活力にして日々仕事している訳でございますよ。

**木曾** 岐阜の男子の性格的な特徴ってありますか？

**左合** 全般に満たされていて、貪欲な方はあまりいない。

**唐澤** 話をするととっても親しみやすく、エネルギーもあって、沸々と思っているもの

ものすごくもっているけれど、それを表に出さない。岐阜県は日本のヘソだからか、ヘソでグーツと思いのたけを全部貯めている感じ。(笑)

戦国時代から、岐阜の人はものすごいパワーを発揮していて、特に集団になると怖いから、村ごとにバラバラにされた歴史があり、そういう歴史を経て、今に至るわけで、浸み込んだ土壌から来る性格があるんでしょうね。特に男の人は無難に、「おとなしめにしておかないとダメだ」というような時代を通り抜けてきたのかも知れないですね。

われわれ岐阜の女性も、そうかも知れないけど、まだある意味女性は楽で、飛びだそうと思えばできる。「家」のことを心配しなくていいし、社会はなかなか女性を認めないけど、「家」から飛び出すことはできる時代。だから、ここにいる人達は飛び出すタイプで、実際に岐阜から飛び出しちゃった人。



つたな」と思います。大手企業管理職セミナー受講者は、殆ど40代、50代で、私より年下が半分なんですよ、だから私も全然動じない。だけど起業した12年前はまだ38歳で、いろんな所で講演頼まれても、企業の管理職の人たちは自分より年上でしょ？それは大きな違いですよ。年齢とともに自然に身につけてくるものを感じる。つまり、私の人生がそのまま私の表現に繋がり、

## 家庭の教育環境と 進学戦争参戦記

**左合** 親の教育もあると思う。ウチは本当に自由で、一人っ子なんだけれどなんでも自分の好きなことをやっていいと。

しかも5歳ぐらいの時に母が将来東京芸大に行かせたいと言っていたようで、それがインプットされていて、おそらく東京芸大っていうところに行くんだなって、なんとなく思っていました。

一人娘が東京に行くのは相当寂しかっただろうと思うんですけど、やりたいことを優先してくれる両親がいたのはありがたいことだし、当時としては珍しく褒めて育てるって教育でした。あの頃って皆・

**木曾** スバルタの時代でしたよね。

**左合** それも良いとは思ってますけど、必要以上に卑下するところがあって、「ウチの子は絵が下手だから」とか言われている友達がいっぱい居た中で、「絵が上手い、上手い」って言われると、母も一緒になって「上手だ」なんて言ってる。「お前なんか下手だよ」とは言わない訳ですよ。上手だから芸大を受けろって言われると、本人はその気になっちゃう。これが教育としてはすごく大事だと思います。お子さん



をお持ちの方はぜひ実践してみてください。ただ、一つ間違つと鼻持ちならなくなるのですが。

**唐澤** 私の父親は電電公社で「女は交換士になればいい」と言う。母親は「理恵ちゃんには女医さんになるのよ」って言い、なんだか訳がわからないので、とにかく両親のもとを離れて東京に行くことしか頭になかったですね。高校はお茶大の付属高校を受けましたんですよ。とにかく高校から東京に出たかった。でも滑ったの。



岐阜高校の頃(唐澤)

**木曾** 今から思ったら東京の子の教育は違いますもの。

**唐澤** お茶大の付属高校を受けた時、見たこともない、高校で習うような問題ばかりで、カルチャーショックで家帰って3日間寝込んだもの。あの14、15歳のかわいい私が。案の定不合格で、また私は3年間岐阜に居なくちゃいけないって思った。

**木曾** 名古屋の高校、菊里だったんですけども、岐阜と名古屋でも全然問題が違いましたから。公立の中学に行つて、名古屋の高校受けることになって、模擬試験を受けたら、何にも解らない。見たこともない図形とか、見たこともない英単語はつきりで、一つも解けなくて、ホントあれ、0点に近かったと思う。

それでショックを受けて、これはいけないと思ひ名古屋の本屋さんに行つて、教科書と参考書を買つて勉強し直したんですよ。じゃないと滑っちゃうから。



**唐澤** あの頃の時代ってものすごい地域によって違ってたんですよ。

**木曾** スイスの高校を受けるってどういうことですか？愛知県だって大変だったのに。

**長島** 日本語のテストでしたから。日本の文科省の認定を受けている学校で、日本人の中の寮生活でした。

それがないと親としても許さなかったと思います。

語学は、英語は覚えてますが、フランス語は接する機会がなく忘れちゃいました。

**木曾** 私も芸大でフランス語をとっていました。

**唐澤** 私はフランス人のボーイフレンドがいきました。(笑)

ビジュアルハラスメント!?

**唐澤** 最近、世間ではハラスメントが問題になってますが、見た目って意外と嫌がらせになりますよね。

**左合** 嫌がらせです。それを毎日人に見せる訳ですから。

**唐澤** 作ろっかな、「ビジュアルハラスメント防止セミナー」みたいななの。

**木曾** 自分が良くても周りが不快な思いをするっていう。

**左合** なんでもビジュアルにもっていくところが強いですよ(笑)。最近、一日一食で20歳若返るって本を読んだのですが、あくまで美しさにこだわっている。100歳になってもそうありたい、健康だけでなく美しくなったらダメっていう本。

**唐澤** 私は美しいのがいいと思っていない。汚いのはダメだと思ってるだけで。やはり、魅力的であることが重要な。

**左合** 著者が男性なのに、「ウエスト・キュッ」で言葉が何度も出てくるんですよ。もともと美容整形に進みたかった方なんですよ。

**木曾** 行こうかしら(笑)。

**左合** その本で推奨している食生活は、今私がおやつのことと同じで、玄米と野菜中心なんです。生産者さんから、いつも段ボールで美味しい野菜が届くんです。

## 最後に。

**唐澤** さて、今日は皆さんありがとうございました。



女性が集まると話題が豊富で話がつきませんね。

みなさんの深いところまで見させて頂き、とても楽しかったです。

勇気をもって岐阜から上京されて、その当時から羽ばたく素養を持っていらして、東京という土地でさらにはばたかれるエネルギーをもらっていらっしゃる皆さんから、さらに勇気をいただきました。

岐阜にもバンバン帰省し、岐阜のエネルギー、岐阜人としての魂をますます発揮して、この日本をよくしていきましょう!